

# 郷土教育の在り方について

昭和女子大学 押谷由夫

## 1 これからの教育の動向

### (1) 人格の完成を目指した教育の具体化 (改正教育基本法)

- ・徳 (いかに生きるか) を中核に据え知と体を調和的に発展させる
- ・グローバルな視点に立ち社会的自立を図る

### (2) 道徳教育の抜本的改善・充実

- ・人生や生活、学習に生きて働く道徳性の育成  
(自律的に道徳的実践のできる子どもを育てる)
- ・「特別の教科道徳」の設置  
(「特別の教科道徳」を要に学校を生き生きとした人間形成・人格形成の場にする)

### (3) 新しい時代と社会に開かれた教育課程 (次期学習指導要領改訂の方針)

- ・社会の変化、グローバル化に対応できる能力の育成
- ・人生を主体的に切り拓くための学び
- ・そのための資質・能力の育成
  - 1 何を知っているか、何ができるか (個別の知識・技能)
  - 2 知っていること・できることをどう使うか (思考力・判断力・表現力等)
  - 3 どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか  
(学びに向かう力、人間性等)
- ・アクティブラーニング (主体的・協働的学び) の推進  
(課題や問題に対して主体的・協働的に取り組み解決を図っていく)

## 2 これからの教育の動向を見据えて特に大切にしていきたいこと

### (1) 生き方の根本となる道徳的価値意識の覚醒

- ・生活している場への愛着 (感謝・報恩)
- ・郷土愛、学校愛、家庭愛の統合

### (2) 日本国民が大切にしてきた生き方の伝達と発展

- ・自然と共に生きる  
(自然を愛でる、自然を楽しむ、自然と一体感を味わう、自然を育てる)  
(自然に学ぶ、自然に感謝する、大いなるものを感じる)
- ・体験と教訓 (先人の教え等) を通して生き方を学ぶ  
(近江商人の生き方、中江藤樹の生き方等)
- ・清き明るき心 (清明心)、憐憫の情、克己心、寛容の精神と謙虚さ 等

### (3) 世界の人々との交流を深める生き方

- ・東日本大震災に対する援助へのご恩返し
- ・日本国民が大切にしてきた心を世界に発信していく
- ・世界の国々との連携協力  
(世界の国々から学び、お役にたてることしていく)

## 3 郷土教育をどのように進めていくか

### (1) 郷土愛、学校愛、家庭愛を一体的に育む

- ・学校、家庭、地域連携  
 (新しいコミュニティースクールの創設)  
 (学校を拠点にした通学合宿、学区内ホームステイ、児童生徒—地域住民ネットワーク等)  
 (学校を地域の総合学習文化施設としてとらえる、学校に地域住民の部屋や花壇、地域園などを設ける。昼間の学校を会場に社会教育講座の一部を行う。作品等の展示を学校で行う。等)
- ・親(保護者)子で一緒に取り組めるものを積極的に開く  
 (スポーツ、地域学習、レクリエーション等)
- ・地域での生活や学び、学校での生活や学び、家庭での生活や学びを充実させ、それらをつなげる、

## (2) ふるさとのよさを心と体に刻もう

- ・全身(あらゆる感覚器官を使って)でふるさとの自然と空気に触れる  
 (郷土の自然との触れ合い—日常生活において、様々な教育課程に位置付けて、家庭や地域と連携して)  
 (散歩やジョギング、体操や活動を通してふるさとの空気を感じよう)
- ・様々な体験的活動(伝統文化に根差したものを制作するなどの体験)

## (3) ふるさとへの誇りと主体的なかかわりがもてるようにしよう

- ・ふるさとの歴史を知ろう  
 (長浜学の学習と検定、地域の民話や伝わっているものの掘り起しと教材化—道徳教材の共有化)  
 (ふるさとの先人の生き方に学ぶ—特に広い心と誠実さ、謙虚さを学ぼう)
- ・ふるさとと世界とのかかわりを知ろう  
 (先人、産業、生活、文化交流など)  
 (どの学校にも大きな世界地図を廊下に貼ろう—どの学校にも学区の地図、長浜市の地図、滋賀県の地図、日本地図、世界地図を廊下に貼り、定期的に情報を掲示していくようにしたい)  
 (英語でふるさとを紹介できるようにしよう)
- ・ふるさとの今の現状と課題を考えよう  
 (ふるさとについて様々な学び—総合的な学習の時間の中に位置付ける)  
 (ふるさとマップや四季の変化の調べ学習、方言の調べ学習なども行い長浜学を膨らませる)  
 (児童会、生徒会の充実、子ども市議会等の定期的開催)
- ・ふるさとの未来を考えよう  
 (10年後の私の長浜市、20年度の私と長浜市といった学習を総合的な学習の時間などで行う)
- ・ふるさと学習発表会を計画しよう  
 (各学校で、市全体で 地域も巻き込んで)

★このようなふるさと学習を「特別の教科道徳」を要に各教科や特別活動、総合的な学習の時間、家庭や地域との連携と響き合わせて計画的に取り組めるようにしたい。